

中学校 美術科 部会

部会長名 方城中学校 校長 友松 秀樹
実践者名 金田中学校 教諭 星出 秀夫

1. 研究主題

「美術科学習指導と評価に関する研究」

～新学習指導要領に基づいた指導と評価の推進を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

平成24年度から実施される学習指導要領では、学校教育で育成する学力を、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「学習意欲」の3つの要素と定め、「確かな学力」として位置づけた。21世紀に生きる子どもたちの教育の充実に向け、「生きる力」の主要な柱として、学力の3つ要素を調和的にはぐくむよう中央教育審議会において要請されたものである。

そのために、生徒自らが学ぶ意欲と喜びを持ち、個性を生かして学習していく過程で、主体的に基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、それらを通して豊かな人間性が築いけるような学習指導が展開されなければならない。

(2) 美術科の目標から

教科の目標は、小学校図画工作科における学習経験と、そこで培われた豊かな感性や表現及び鑑賞の基礎的な能力などを基に、中学校美術科に関する資質や能力の向上と、それらを通じた人間形成の一層の深化を図ることをねらいとし、高等学校芸術科美術、工芸への発展を視野に入れつつ、目指すべきところを総括的に示したものである。

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

教科の目標は、①美的、造形的表現・創造、②文化・人間理解、③心の教育の3つの視点でとらえることができる。これらを十分に踏まえて、教科目標の実現に向けて確かな実践を一層推進していくことが求められる。

3. 主題の意味

(1) 美術科学習指導とは

今回の改訂で、内容の構造が、育成する資質や能力によって整理され、「A表現」、
「B鑑賞」及び〔共通事項〕の2領域、1事項から構成された。内容の構造の変化については、育成する資質や能力によって整理したことで表現における従来の「絵や彫刻などに表現する活動」や「デザインや工芸などに表現する活動」といった領域的な内容の示し方が後退した。また表現の技能がまとめて示されたことは、意図や目的の違いがあっても同じ技能として捉えたことによるものである。〔共通事項〕は表現、鑑

賞のすべての学習の支えとなるものであり、美術学習の中で明確に位置づけて指導の充実を図ることが企図されたものである。このことから、中学校美術科における学習を、活動主体のものから学習で身につけるべき諸能力の育成に重点をおいて、生徒のより主体的で創造的な課題探求の学習を設定することで豊かな感性や創造性を育む学習内容を目指すことになる。

(2) 評価とは

新学習指導要領の下、生徒の「生きる力」の育成をめざし、生徒一人ひとりの資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況を確実にみとること、生徒一人ひとりの進歩や状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすこと。学習指導要領に示す内容が確実に身についたかどうかをみとることである。

また、今回の改訂により、言語活動を通し知識・理解を活用して思考力・判断力・表現力を高める学習指導が重視された。そのため、学習指導において言語活動が重視されている。これからの評価は、思考力・判断力・表現力を評価することが重視され、思考力・判断力・表現力が身に付いたかをみとることである。

4. 研究の目標

美術科において、新学習指導要領がめざす「確かな学力」を身につけるための学習指導と評価方法について研究する。

5. 研究仮説

美術科において、下記のような手立てをとり、言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価を位置づけた学習指導を進めていけば、新学習指導要領がめざす「確かな学力」を身につけることができるであろう。

- (1) 言語活動を取り入れた鑑賞活動の充実。
- (2) 評価の観点や評価規準の明確化。

6. 研究の計画（授業の計画）

- (1) 題材「超現実的な世界」
- (2) 題材の目標及び指導計画

題 材	超現実的な世界	総時数	1 時間	時期	9 月
題材目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ シュルレアリスム作品の手法や表現に親しみ関心を持って意欲的に鑑賞し、作品をつくることができる。【関心・意欲・態度】 ○ シュルレアリスムの手法や表現などを考えながら、感じたことや思ったことを基に構想を練ることができる。【発想の能力】 ○ モダンテクニック等を表現意図に合うように創意工夫することができる。【創造的な技能】 ○ シュルレアリスム作品の手法の意図や表現の工夫に気付き、 				

理解することができる。【鑑賞の能力】		
配時	学 習 内 容	主な評価基準（観点）
1 時 間	<ul style="list-style-type: none"> ○ シュルレアリスム作品の鑑賞を行い，シュルレアリストたちがどんな手法を用いて作品を描いたかを予想する。 ○ 自分の考えを出し合い交流することで，他者の意見や考えを知る。 ○ シュルレアリスムの基本的な手法を学び，再度作品を鑑賞し，手法や表現方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ シュルレアリスム作品にどんな手法や表現などが使われているか，考えながら作品を観ることができる。【関心・意欲・態度】 ○ シュルレアリスム作品の手法や表現について気づくことができる。【鑑賞の能力】 ○ シュルレアリスム作品の手法や表現方法について理解することができる。【鑑賞の能力】
3 時 間	<ul style="list-style-type: none"> ○ モダンテクニック等を活用し，「超現実的な世界」（シュルレアリスム作品）を作成する。 ○ 他者の作品を鑑賞し，意見を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ シュルレアリスム作品使われている手法や表現など考えながら，作品を作ることができる。【関心・意欲・態度】 ○ シュルレアリスムの手法や表現などを考えながら，感じたことや思ったことを基に構想を練ることができる。【発想の能力】 ○ モダンテクニック等を表現意図に合うように創意工夫することができる。【創造的な技能】 ○ 作品を鑑賞し，表現の工夫などを意見交流することができる。【鑑賞の能力】

7. 指導の実際

段階	学習活動・内容	指導の方法・留意点	評価の観点
導 入	1. 本時の学習目標や内容を確認する。	○ シュルレアリストたちの代表的な手法や表現方法について学習することを知らせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて _____ シュルレアリスム作品を観て，「手法」と「表現」に気づき，理解しよう </div>		

展 開	<p>2. シュルレアリスム作品を観て、シュルレアリストは不思議な感じを生み出すためにどんな工夫をしているのか、またどんな技法を用いて作品を描いたのか、考えを書く。</p>	<p>○ プレゼンテーションを使ってシュルレアリスムの作品を紹介する。</p> <p>○ 画家たちはどのようにして不思議な感じをうみだしたのかに注目するように伝える。</p> <p>○ 2年時に学習した技法(モダンテクニック)が用いられていることに気づくようなヒントを与える。</p> <p>○ 自分が考えた手法について文章化させることで作品から受けた感覚を確認させる。</p>	<p>* シュルレアリスム作品にどんな手法や表現などが使われているか、考えながら作品を観ることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>* シュルレアリスム作品の手法や表現について気づくことができる。</p> <p>【鑑賞の能力】</p>
	<p>3. それぞれの考え発表し、他者の考えを知る。</p> <p>4. シュルレアリスムの基本的な手法の説明を受け、そこに注意しながら再度プレゼンテーションを観る。</p>	<p>○ 生徒の発表をきちんと受け止め、取上げる。</p> <p>○ シュルレアリストたちの代表的な手法(モダンテクニックやデペインズマン)について、プレゼンテーションを使って補足する。</p>	<p>* シュルレアリスム作品の手法や表現方法について理解することができる。【鑑賞の能力】</p>
ま と め	<p>5. 本時の学習のまとめと感想を書く。</p>	<p>○ 本時の学習でわかったことを基に、本時のまとめと感想を書かせる。</p>	

8. 研究のまとめ

- 評価の方法としては、「観察」、「記述物」、「対話」、「作品」、「テスト」等が主だったものとして上げられる。現物として残る「記述物」や「作品」、「テスト」では、評価基準を明確にし、じっくりと評価することができるが、特に「観察」における評価は、その瞬間、瞬間の一場面であるため、教師側に明確な観点や評価基準を基にした、チェックリスト等の活用の必要性を感じた。同じく「対話」についても、記述ができていない生徒などは、話し込みの中から思考・判断をみとる必要があるため、こまめに記録を残す必要があると感じた。

9. 成果と課題

(1) 成果

- 評価の観点や評価基準を明確に提示することで、生徒が具体的に何をどうすればよいのかがはっきりし、生徒のモチベーションを上げることができた。

(2) 課題

- 評価の観点や評価基準を明確に提示するために、教師側の準備にかなりの時間が必要であり、忙しい現場の中で、細かく評価基準を提示してやるための研究と工夫が必要である。

◎参考文献

- ・ 中学校美術指導資料「指導計画の作成と学習指導の工夫」 文部省
- ・ 中学校美術指導資料「美術科における学習指導と評価の工夫」 文部省
- ・ 中学校学習指導要領解説「美術編」 文部省
- ・ 新学習指導要領における学習評価の進め方 佐賀県教育センター